

日本思想史

| 授業科目名 | 授業題目 | 単位 | 担当教員氏名 | 開講 セメスター |
|------------|-------------|----|------------|-------------|
| 日本思想史特論Ⅰ | 読み書きの日本思想史 | 2 | 引野 亨輔 | 前期 火曜4限 |
| 日本思想史特論Ⅱ | 若さと老いの日本思想史 | 2 | 引野 亨輔 | 後期 火曜4限 |
| 日本思想史特論Ⅲ | 読み書きの日本思想史 | 2 | 引野 亨輔 | 前期 火曜4限 |
| 日本思想史特論Ⅳ | 若さと老いの日本思想史 | 2 | 引野 亨輔 | 後期 火曜4限 |
| 日本比較思想史特論Ⅰ | 女神・女教祖・巫女論Ⅱ | 2 | 片岡 龍 | 後期 月曜3限 |
| 日本比較思想史特論Ⅱ | 女神・女教祖・巫女論Ⅱ | 2 | 片岡 龍 | 後期 月曜3限 |
| 日本文化思想史特論Ⅰ | 女神・女教祖・巫女論Ⅰ | 2 | 片岡 龍 | 前期 月曜3限 |
| 日本文化思想史特論Ⅱ | 女神・女教祖・巫女論Ⅰ | 2 | 片岡 龍 | 前期 月曜3限 |
| 日本思想史総合演習Ⅰ | 日本思想史の諸問題Ⅰ | 2 | 引野 亨輔、片岡 龍 | 前期 水曜4限 |
| 日本思想史総合演習Ⅱ | 日本思想史の諸問題Ⅱ | 2 | 引野 亨輔、片岡 龍 | 後期 水曜4限 |
| 日本思想史総合演習Ⅲ | 日本思想史の諸問題Ⅰ | 2 | 引野 亨輔、片岡 龍 | 前期 水曜4限 |
| 日本思想史総合演習Ⅳ | 日本思想史の諸問題Ⅱ | 2 | 引野 亨輔、片岡 龍 | 後期 水曜4限 |
| 日本思想史研究演習Ⅰ | 日本思想史の諸問題Ⅰ | 2 | 引野 亨輔、片岡 龍 | 前期 水曜5限 |
| 日本思想史研究演習Ⅱ | 日本思想史の諸問題Ⅱ | 2 | 引野 亨輔、片岡 龍 | 後期 水曜5限 |
| 日本思想史研究演習Ⅲ | 日本思想史の諸問題Ⅰ | 2 | 引野 亨輔、片岡 龍 | 前期 水曜5限 |
| 日本思想史研究演習Ⅳ | 日本思想史の諸問題Ⅱ | 2 | 引野 亨輔、片岡 龍 | 後期 水曜5限 |

科目名：日本思想史特論 I

曜日・講時：火曜 4 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM12401, 科目ナンバリング：LJS-PHI601J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：読み書きの日本思想史

2・授業の目的と概要：読むことや書くことができなければ、人は思想を形成し、また伝承することが、はなはだ困難になるはずである。ところが、読むことも書くことも、現代人にとってあまりに当たり前の行為となっているため、その意義を考える機会は、日常生活のなかにはあまり存在しない。そこで、本授業では、受講生たちに文字学びをめぐる諸文献を読んでもらい、時代とともに変化する読み・書きの意義について理解を深めてもらう。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、文字学びをめぐる諸文献の読解を通じて、固定観念に縛られない柔軟な思想分析の方法を身に付けることである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、受講生による発表と討論を柱として進める。

第1回：ガイダンス

第2回：「識字大国日本」再考①—網野善彦を読み直す—

第3回：「識字大国日本」再考②—青木美智男から学ぶ—

第4回：読むことの多様性—ロジェ・シャルチエを読み直す—

第5回：江戸時代人の読書の実態—長友千代治から学ぶ—

第6回：自学自習のための書物—鈴木俊幸から学ぶ—

第7回：読まない江戸時代人たちの知恵—鈴木理恵から学ぶ—

第8回：近代社会と音読のゆくえ—永嶺重敏から学ぶ—

第9回：書くことの権威性—小川剛生から学ぶ—

第10回：書くという行為と呪術—小池淳一から学ぶ—

第11回：漢文訓読の世界—金文京から学ぶ—

第12回：縦書き・横書きの日本史—屋名池誠から学ぶ—

第13回：漢字亡国論の変遷—安田敏朗から学ぶ—

第14回：電子書籍と読み・書きの未来—

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：本授業は、授業への参加度 30%、ミニットペーパー30%、期末レポート 40%の割合で評価する。

6. 教科書および参考書：使用する論文については、授業中に適宜指示する。

7. 授業時間外学習：全受講生は、授業ごとに指定する課題論文を事前に精読し、ミニットペーパーを提出すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅱ

曜日・講時：火曜 4 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM22402, 科目ナンバリング：LJS-PHI602J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：若さと老いの日本思想史

2・授業の目的と概要：我々は、若者といえば短気な存在であると捉えたり、老人といえば頑固な存在であると捉えたり、若さや老いに固定的な印象を抱きがちである。しかし、そのような捉え方は、時代や地域を超越して不変的なものではない。そこで、本授業では、受講生たちに江戸時代に記された若さや老いに関する諸文献を読んでもらい、時代とともに変化する物の見方への

理解を深めてもらう。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、江戸時代に記された諸文献の読解を通じて、固定観念に縛られない柔軟な思想分析の方法を身に付けることである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、受講生による発表と討論を柱として進める。

第1回：ガイダンス

第2回：先行研究から江戸時代の若さについて考える

第3回：『小児必用養育草』を読む ①—慈幼観念の誕生—

第4回：『小児必用養育草』を読む ②—出産とケガレ観念—

第5回：『小児必用養育草』を読む ③—生育儀礼の諸相—

第6回：『小児必用養育草』を読む ④—幼児と病—

第7回：『小児必用養育草』を読む ⑤—幼児と学び—

第8回：先行研究から江戸時代の老いについて考える

第9回：『老人必用養草』を読む ①—孝行の論理—

第10回：『老人必用養草』を読む ②—老人と年齢—

第11回：『老人必用養草』を読む ③—養生のすすめ—

第12回：『老人必用養草』を読む ④—老人と肉食—

第13回：『老人必用養草』を読む ⑤—老人と病—

第14回：現代社会における若さと老い

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：この授業は、担当回の発表 40 %、平常授業への参加度 30 %、小レポート 30%で評価する。

6. 教科書および参考書：使用する資料や論文については、授業中に適宜指示する。

7. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。

また、授業ごとに指定する資料・論文は、受講生全員が事前に読んでおくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅲ

曜日・講時：火曜 4 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM12402, 科目ナンバリング：LJS-PHI609J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：読み書きの日本思想史

2・授業の目的と概要：読むことや書くことができなければ、人は思想を形成し、また伝承することが、はなはだ困難になるはずである。ところが、読むことも書くことも、現代人にとってあまりに当たり前の行為となっているため、その意義を考える機会は、日常生活のなかにはあまり存在しない。そこで、本授業では、受講生たちに文字学びをめぐる諸文献を読んでもらい、時代とともに変化する読み・書きの意義について理解を深めてもらう。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、文字学びをめぐる諸文献の読解を通じて、固定観念に縛られない柔軟な思想分析の方法を身に付けることである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、受講生による発表と討論を柱として進める。

第1回：ガイダンス

第2回：「識字大国日本」再考①—網野善彦を読み直す—

第3回：「識字大国日本」再考②—青木美智男から学ぶ—

第4回：読むことの多様性—ロジェ・シャルチエを読み直す—

第5回：江戸時代人の読書の実態—長友千代治から学ぶ—

第6回：自学自習のための書物—鈴木俊幸から学ぶ—

第7回：読まない江戸時代人たちの知恵—鈴木理恵から学ぶ—

第8回：近代社会と音読のゆくえ—永嶺重敏から学ぶ—

第9回：書くことの権威性—小川剛生から学ぶ—

第10回：書くという行為と呪術—小池淳一から学ぶ—

第11回：漢文訓読の世界—金文京から学ぶ—

第12回：縦書き・横書きの日本史—屋名池誠から学ぶ—

第13回：漢字亡国論の変遷—安田敏朗から学ぶ—

第14回：電子書籍と読み・書きの未来—

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：本授業は、授業への参加度 30%、ミニットペーパー30%、期末レポート 40%の割合で評価する。

6. 教科書および参考書：使用する論文については、授業中に適宜指示する。

7. 授業時間外学習：全受講生は、授業ごとに指定する課題論文を事前に精読し、ミニットペーパーを提出すること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅳ

曜日・講時：火曜 4 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM22403, 科目ナンバリング：LJS-PHI610J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：若さと老いの日本思想史

2・授業の目的と概要：我々は、若者といえば短気な存在であると捉えたり、老人といえば頑固な存在であると捉えたり、若さや老いに固定的な印象を抱きがちである。しかし、そのような捉え方は、時代や地域を超越して不変的なものではない。そこで、本授業では、受講生たちに江戸時代に記された若さや老いに関する諸文献を読んでもらい、時代とともに変化する物の見方への

理解を深めてもらう。

3. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、江戸時代に記された諸文献の読解を通じて、固定観念に縛られない柔軟な思想分析の方法を身に付けることである。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は、受講生による発表と討論を柱として進める。

第1回：ガイダンス

第2回：先行研究から江戸時代の若さについて考える

第3回：『小児必用養育草』を読む ①—慈幼観念の誕生—

第4回：『小児必用養育草』を読む ②—出産とケガレ観念—

第5回：『小児必用養育草』を読む ③—生育儀礼の諸相—

第6回：『小児必用養育草』を読む ④—幼児と病—

第7回：『小児必用養育草』を読む ⑤—幼児と学び—

第8回：先行研究から江戸時代の老いについて考える

第9回：『老人必用養草』を読む ①—孝行の論理—

第10回：『老人必用養草』を読む ②—老人と年齢—

第11回：『老人必用養草』を読む ③—養生のすすめ—

第12回：『老人必用養草』を読む ④—老人と肉食—

第13回：『老人必用養草』を読む ⑤—老人と病—

第14回：現代社会における若さと老い

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：この授業は、担当回の発表 40 %、平常授業への参加度 30 %、小レポート 30%で評価する。

6. 教科書および参考書：使用する資料や論文については、授業中に適宜指示する。

7. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。

また、授業ごとに指定する資料・論文は、受講生全員が事前に読んでおくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本比較思想史特論 I

曜日・講時：月曜 3 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：片岡 龍

コード：LM21301, **科目ナンバリング：**LJS-PHI603J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：女神・女教祖・巫女論 II

2・授業の目的と概要：日本の思想・文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキストと研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。具体的には日本の女神・女教祖・巫女に関する言説をアジア等と比較して、日本文化・思想の特質について考察する。

3. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、思想分析、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：女神論

第3回：女神論

第4回：女神論

第5回：女神論

第6回：女神論

第7回：女教祖論

第8回：女教祖論

第9回：女教祖論

第10回：女教祖論

第11回：女教祖論

第12回：巫女論

第13回：巫女論

第14回：巫女論

第15回：巫女論

※第2～15回のテーマは、一応の目安

定期試験：なし

5. 成績評価方法：平常点 100%（出席 40%、発表・討論 60%）

6. 教科書および参考書：教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

7. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本比較思想史特論Ⅱ

曜日・講時：月曜3限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM21302, 科目ナンバリング：LJS-PHI611J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：女神・女教祖・巫女論Ⅱ

2・授業の目的と概要：日本の思想・文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキストと研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。具体的には日本の女神・女教祖・巫女に関する言説をアジア等と比較して、日本文化・思想の特質について考察する。

3. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、思想分析、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：女神論

第3回：女神論

第4回：女神論

第5回：女神論

第6回：女神論

第7回：女教祖論

第8回：女教祖論

第9回：女教祖論

第10回：女教祖論

第11回：女教祖論

第12回：巫女論

第13回：巫女論

第14回：巫女論

第15回：巫女論

※第2～15回のテーマは、一応の目安

定期試験：なし

5. 成績評価方法：平常点100%（出席40%、発表・討論60%）

6. 教科書および参考書：教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

7. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本文化思想史特論 I

曜日・講時：月曜 3 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：片岡 龍

コード：LM11301, **科目ナンバリング：**LJS-PHI604J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：女神・女教祖・巫女論 I

2・授業の目的と概要：日本の思想・文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキストと研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。具体的には日本の女神・女教祖・巫女に関する言説の分析を通じて、日本文化・思想の特質について考察する。

3. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、思想分析、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：女神論

第3回：女神論

第4回：女神論

第5回：女神論

第6回：女神論

第7回：女教祖論

第8回：女教祖論

第9回：女教祖論

第10回：女教祖論

第11回：女教祖論

第12回：巫女論

第13回：巫女論

第14回：巫女論

第15回：巫女論

※第2～15回のテーマは、一応の目安

定期試験：なし

5. 成績評価方法：平常点 100%（出席 40%、発表・討論 60%）

6. 教科書および参考書：教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

7. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他：

科目名：日本文化思想史特論Ⅱ

曜日・講時：月曜3限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：片岡 龍

コード：LM11302, **科目ナンバリング：**LJS-PHI613J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：女神・女教祖・巫女論Ⅰ

2・授業の目的と概要：日本の思想・文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキストと研究論文を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。具体的には日本の女神・女教祖・巫女に関する言説の分析を通じて、日本文化・思想の特質について考察する。

3. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、思想分析、時代的考察、テーマ設定など）を身に着ける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：女神論

第3回：女神論

第4回：女神論

第5回：女神論

第6回：女神論

第7回：女教祖論

第8回：女教祖論

第9回：女教祖論

第10回：女教祖論

第11回：女教祖論

第12回：巫女論

第13回：巫女論

第14回：巫女論

第15回：巫女論

※第2～15回のテーマは、一応の目安

定期試験：なし

5. 成績評価方法：平常点100%（出席40%、発表・討論60%）

6. 教科書および参考書：教科書（テキスト）・参考書：授業中に適宜資料を配布します。

7. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史総合演習 I

曜日・講時：水曜 4 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM13402, **科目ナンバリング：**LJS-PHI605J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2・授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

3. 学習の到達目標：日本思想史の研究方法の会得と深化

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジюме・中間レジюме・小論文） [100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荏部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジюмеは前々週金曜日まで、中間レジюмеは前週金曜日まで、本レジюмеは1日前、小論文は発表終了後2週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史総合演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 4 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM23404, **科目ナンバリング：**LJS-PHI606J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2・授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

3. 学習の到達目標：研究論文の作成

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荏部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは1日前、小論文は発表終了後2週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史総合演習Ⅲ

曜日・講時：水曜 4 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM13403, **科目ナンバリング：**LJS-PHI615J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2・授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

3. 学習の到達目標：日本思想史の研究方法の会得と深化

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文） [100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荏部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他：

科目名：日本思想史総合演習Ⅳ

曜日・講時：水曜 4 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM23405, **科目ナンバリング：**LJS-PHI616J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

3. 学習の到達目標：研究論文の作成

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文） [100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荏部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史研究演習 I

曜日・講時：水曜 5 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM13503, **科目ナンバリング：**LJS-PHI607J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

3. 学習の到達目標：日本思想史の研究方法の会得と深化

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文） [100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荏部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 5 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM23503, **科目ナンバリング：**LJS-PHI608J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

3. 学習の到達目標：研究論文の作成

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荏部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは1日前、小論文は発表終了後2週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅲ

曜日・講時：水曜 5 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM13504, **科目ナンバリング：**LJS-PHI617J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2・授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

3. 学習の到達目標：日本思想史の研究方法の会得と深化

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文） [100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他：

科目名：日本思想史研究演習IV

曜日・講時：水曜 5 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：引野 亨輔、片岡 龍

コード：LM23504, **科目ナンバリング：**LJS-PHI618J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2・授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

3. 学習の到達目標：研究論文の作成

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

5. 成績評価方法：平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文） [100%]

6. 教科書および参考書：佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荏部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

7. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは1日前、小論文は発表終了後2週間以内に完成するよう準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：